基準化等作業・候補項目の現状

令和8年度　第2回車両安全対策検討会
令和8年11月4日
安全－資料3－1

分野	近年基準化した主な項目	基準化が予定されている主な項目	基準化等の候補項目[注1]
1. 自動運転及び高度な運転支援技術の開発・普及促進	高速域・車線変更等に対応した高度な自動運転機能（UNR157改正等） DCAS（縦・横方向の運行補助機能）（UNR171改正） リスク軽減機能（ドライバー異常時対応システム）（UNR79改正）		1-1. ドライバーレス車両に対応した基準整備（各GTR/UNR） 1-2. 自動運行装置（新UNR導入） 1-3. 自動運転車の外向けコミュニケーション（HMI） 1-4. DCAS（縦・横方向の運行補助装置）（UNR171改正） 1-5. 高度な運転支援機能（低速・中速域等）
2. 高齢運転者等による事故の防止・被害軽減、乗員保護	高齢者を対象とした胸たわみ量による評価を踏まえた乗員保護（性能向上）（UNR137改正） ドライバーモニタリングシステム（新UNR導入）	燃料電池自動車の安全性（GTR13/UNR134改正） 緊急時のドア及び窓の開放要件（UNR11、UNR21）	2-1. 衝突被害軽減ブレーキ（高度化） 2-2. ペダル踏み間違い時加速抑制装置（高度化） 2-3. ヘッドレスト（性能向上） 2-4. コンパティビリティ改善対応ボディ等の前面衝突対応[注2] （注2：多様な乗車姿勢や体格に応じた乗員保護対策に関する研究を行うことにより、安全基準のあり方について検討。） 2-5. 電気自動車の安全性（電池劣化等） 2-6. 燃料電池自動車の安全性 2-7. 事故自動緊急通報装置[注3] （注3：自動車アセスメント（以下「アセス」）を通じた検知対象の拡大等）
3. こどもの安全確保			3-1. 先読み運転や通信技術と連携した運転支援技術[注4] （注4：将来技術開発の促進、機能の評価方法・普及促進策の検討） 3-2. 衝突被害軽減ブレーキ（作動場面の拡充）【再掲】 3-3. チャイルドシートの安全性[注5] （注5：アセスによる多面的評価、適切な使用等の啓発に係る官民連携） 3-4. 子ども置き去り防止支援装置 （注6：事故実態を踏まえた幅広い車両への普及策の検討等）
4. 歩行者・自転車等利用者の安全確保	前方視界基準（小型商用車への対象拡大）（UNR125改正）	アクティブボンネット（DPPS）による歩行者保護（性能向上）（GTR9、UNR127改正） シグナルロードプロジェクション（SRP）による方向指示器の認識性の向上（UNR48改正）	4-1. 歩行者・自転車保護技術[注7] （注7：アセスを通じた性能向上、エアバッグ技術等の性能向上） 4-2. 先進的な灯火器（路面描画等） 4-3. 先読み運転や通信技術と連携した運転支援技術【再掲】 4-4. 衝突被害軽減ブレーキ（作動場面の拡充）【再掲】 4-5. 事故自動緊急通報装置【再掲】
5. 大型車・二輪車による事故の防止・被害軽減	大型車の事故情報記録装置（EDR）（新UNR169導入） 二輪自動車等の後面衝突警告表示灯（UNR53改正） ドライバーモニタリングシステム（新UNR導入）【再掲】	バス横転時の避難経路の確保	5-1. 交差点右左折時の安全性[注8]（注8：技術開発、普及促進） 5-2. 車輪脱落予兆検知装置[注9]（注9：既存車も含めた普及促進） 5-3. バス車内・発進時事故防止[注10]（注10：技術開発、性能向上） 5-4. 二輪車用エアバッグ・先進運転支援技術（ARAS）[注11] （注11：運転者に注意喚起を行う技術を中心とした技術開発・普及策の検討）
6. 小型モビリティの安全確保	電動キックボードの安全性		6-1. 電動キックボード・ミニカー・自動配送ロボット等の安全性
7. 分野横断的な対策・その他	タイヤのウェットグリップ（性能向上）（UNR117改正） 巻込防止装置の基準調和（UNR73改正）		7-1. 車載式故障診断装置（OBD） 7-2. EDR・ドラレコデータ等のミクロデータ[注12] （注12：ミクロデータの取得体制構築及び得られたミクロデータを活用した車両安全対策について検討。） 7-3. 飲酒運転防止対策[注13] （注13：運行管理、交通安全教育、厳罰化やアルコール依存対策等の関係施策と連携し、アルコールインターロック装置に関する効果的な活用策について検討。）

注1：令和8年交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会報告書中取り組むべき事項として挙げられているもの。
注2～注13：同報告書において、「安全基準の策定・強化」以外の取り組むべき事項として挙げられているもの。（同報告書中の記載概要）

下線部は次回保安基準改正の対象項目

（参考）主な車両安全対策（基準・アセス・ASV）の検討状況

分野	安全基準*	自動車アセスメント*	ASV
1. 自動運転及び高度な運転支援技術の開発・普及促進	・1-1.ドライバーレス車両（各GTR/UNR等） ・1-2.自動運行装置（新UNR導入） ・1-3. DCAS（縦・横方向の運行補助装置）（UNR171改正） ・1-4.高度な運転支援機能（低速・中速域等） ・1-5.自動運転車の外向けコミュニケーション（HMI）	・自動運転を見据えた運転支援技術やV2X に関する性能評価の検討 ・先読み運転（リスク低減運転支援）の評価導入（2028年度開始予定）	・第8期ASV検討会で、引き続き検討予定。 （テーマについては調整中）
2. 高齢運転者等による事故の防止・被害軽減、乗員保護	・2-1.衝突被害軽減ブレーキ（作動場面の拡充） ・2-2.ペダル踏み間違い時加速抑制装置（高度化） ・2-3.ヘッドレスト（性能向上） ・2-5. 電気自動車の安全性（電池劣化等） ・2-6. 燃料電池自動車の安全性	・ペダル踏み間違い時加速抑制装置における走行中対応等の評価導入 ・ドライバーモニタリングの評価導入（2028年度評価開始予定） ・MPDB前面衝突試験における台車重量・バリア変更の検討（2030年度評価開始予定） ・側面衝突試験の評価改善（2030年度開始予定）	
3. こどもの安全確保		・学童用チャイルドシートの評価導入（2028年度開始予定）	
4. 歩行者・自転車等利用者の安全確保	・4-2.先進的な灯火器（路面描画等） ・4-4.衝突被害軽減ブレーキ（作動場面の拡充）【再掲】	・歩行者頭部保護性能試験の評価改善（2028年度開始予定） ・事故自動緊急通報装置における交通弱者対応の評価導入	
5. 大型車・二輪車による事故の防止・被害軽減	・バス横転時の避難経路の確保	・商用車の評価項目の検討（2030年度評価開始予定）	
6. 小型モビリティの安全確保	・6-1.電動キックボード・ミニカー・自動配送ロボット等の安全性		
7. 分野横断的な対策・その他	・7-1.車載式故障診断装置（OBD）		

※赤字は令和8年交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会報告書中取り組むべき事項が完了したもの　※青字は国連基準の策定・改正が行われているもの　※緑字は開始時期決定済のもの
＊：令和8年交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会報告書中取り組むべき事項として挙げられているもの